

# 揺らぐオープンソース

## —WYRIWYG の確保における著作権ライセンスの限界—

○八田真行 (Masayuki Hatta)

**Keywords** : オープンソース、ソフトウェア工学、ライセンシング、ガバナンス、ビジネスモデル

### 1 目的

本研究の目的は、ソフトウェア開発のパラダイムとして人口に膾炙したオープンソースという概念が近年揺らぎ始めた理由として、技術進化やソフトウェア利用形態の変化が果たした役割を整理することである。The Open Source Definition として 1998 年に確立されて以来、25 年以上に渡ってほぼ更新されることなく受け入れられてきたオープンソース概念が、2010 年代以降なぜ様々な形で批判されるようになったのかについて、一貫した視点を提供することを目的とする。

### 2 方法

本研究の調査・分析方法は、主に文献調査と概念整理である。メーリングリストや電子掲示板、イシュー報告システム等で行われている議論を丹念に追うことで論点の抽出と把握を試みた。

### 3 結果

調査・分析の結果、鍵概念として WYRIWYG (What You Run Is What You Get) を提案する。ソフトウェアは従来ユーザの手元で実行されることが多く、ゆえに実行するオブジェクトコードとソースコードの同一性の確保が重視された。そのためオープンソースでは複製権を軸とした著作権ライセンシングが用いられてきたが、SaaS の普及以来ソフトウェア・システムが大規模化、ネットワーク化するにつれて、それだけでは WYRIWYG が保証できなくなった。また、ソフトウェアの使用（実行）が著作権によって保護されないことが、オープンソースのサポート・ベースのビジネスモデルを成立させる鍵だったが、クラウドなど従量課金によるサービス利用が一般化したことで、いわゆる Big Tech のような大規模設備投資が可能な事業者がフリーライドする機会が増え、実際の開発者に資源の配分がされなくなった。加えてこの二つの変化の到来に時間差があったことが、オープンソースに「小春日和」の時代をもたらした要因だったと考えられる。

### 4 結論

以上により、近年のオープンソース概念を巡る様々な論点 (Reproducible Builds、SSPL、SBOM、ネブラスカ問題等) を統一的に把握することが可能となった。

#### 【主要参考文献】

Hatta, M. (2022). The Nebraska problem in open source software development. *Annals of Business Administrative Science*, 21(5), 91-102.